

令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要

京丹波町教育委員会

令和5年4月18日（火）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査における本町の結果の概要についてお知らせします。

【令和5年度全国学力・学習状況調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日及び調査の対象

令和5年4月18日（火） 小学校第6学年児童（5校：65名）

中学校第3学年生徒（3校：75名）

※オンライン質問調査（4/10～5/16）・中学校英語「話すこと」調査（4/18～5/26）は期間内実施

3 調査内容

（1）教科に関する調査

小学校：国語（14問） 算数（16問）

中学校：国語（15問） 数学（15問） 英語（17問） 英語「話すこと調査」（5問）

（2）質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

＊教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査で測定できるのは学力の特定の一部です。

1 教科に関する調査結果の概要

《平均正答率（百分率）からみる全国との比較の基準》



	国語	算数・数学	英語 「聞くこと・読む こと・書くこと」	英語 「話すこと」
京丹波町 小学校6年生	同程度	同程度		
京丹波町 中学校3年生	同程度	やや下回る	下回る	やや上回る

【小学校】 ＊学習指導要領に基づく内容、領域及び観点

- 国語 ○学習指導要領の内容別（以下、内容別）では、「思考力・判断力・表現力等のB 書くこと」がやや下回る結果となったが、他の内容別（「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力等のA 話すこと・聞くこと、C 読むこと」）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 評価の観点別（以下、観点別）では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「文章の種類とその特徴について理解しているかをみる問題（1 四）」をはじめ、2つの設問に良好な結果が見られたが、「漢字を文の中で正しく使う問題（3 三(1)ア）」はやや課題が見られた。
- 算数 ○学習指導要領の領域別（以下、領域別）では、「A 数と計算」がやや上回る結果で、他の領域別（B 図形、C 変化と関係、D データの活用）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「正三角形の意味や性質について理解しているかをみる問題（2 (3)）」はやや課題が見られたが、他の問題は概ね全国平均程度の結果となった。
- 共通 ○無解答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、児童が意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

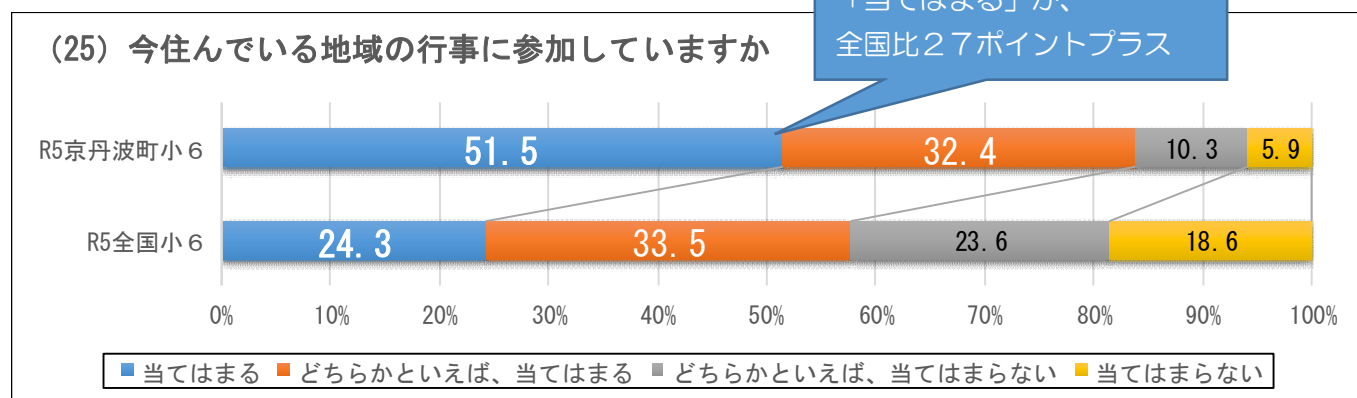
- 国語 ○内容別では、「思考力・判断力・表現力等のB 書くこと」に課題が見られたが、他の内容別（「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力等のA 話すこと・聞くこと、C 読むこと」）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかをみる問題（2四）」をはじめ、3つの設問に良好な結果が見られたが、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる問題（3一）」は課題が見られた。
- 数学 ○領域別では、「A 数と式」は課題が見られ、「B 図形」はやや下回る結果となったが、他の領域別（C 関数、D データの活用）は、概ね全国平均程度の結果となった。
- 観点別では、「知識・技能」が概ね全国平均程度で、「思考・判断・表現」がやや下回る結果となった。
- 設問別では、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる問題（8(3)）」は良好な結果が見られたが、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる問題（6(2)）」をはじめ、5つの設問に課題が見られた。
- 英語 ○領域別では、「(4) 話すこと[発表]」がやや上回る結果、「(3) 話すこと[やり取り]」が概ね全国平均程度の結果であったが、「(1) 聞くこと」、「(2) 読むこと」、「(5) 書くこと」は課題が見られた。
- 観点別（「話すこと調査」以外）では、「思考・判断・表現」がやや下回り、「知識・技能」は課題が見られる結果となった。「話すこと」調査における観点別では、「思考・判断・表現」が良好な結果、「知識・技能」が概ね全国平均程度の結果となった。
- 設問別では、「日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかをみる問題（話すこと調査1(4)）」は良好な結果が見られたが、「未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかをみる問題（9(1)①）」をはじめ、聞くこと・読むこと・書くことに関して10の設問に課題が見られた。
- 上記のように、英語は、「話すこと」調査において良好な結果が見られたが、「聞くこと・読むこと・書くこと」に関する本体調査はかなり厳しい結果となった。
- 共通 ○無回答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、生徒が粘り強く、意欲的に問題に取り組んだことがうかがえる。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果の概要

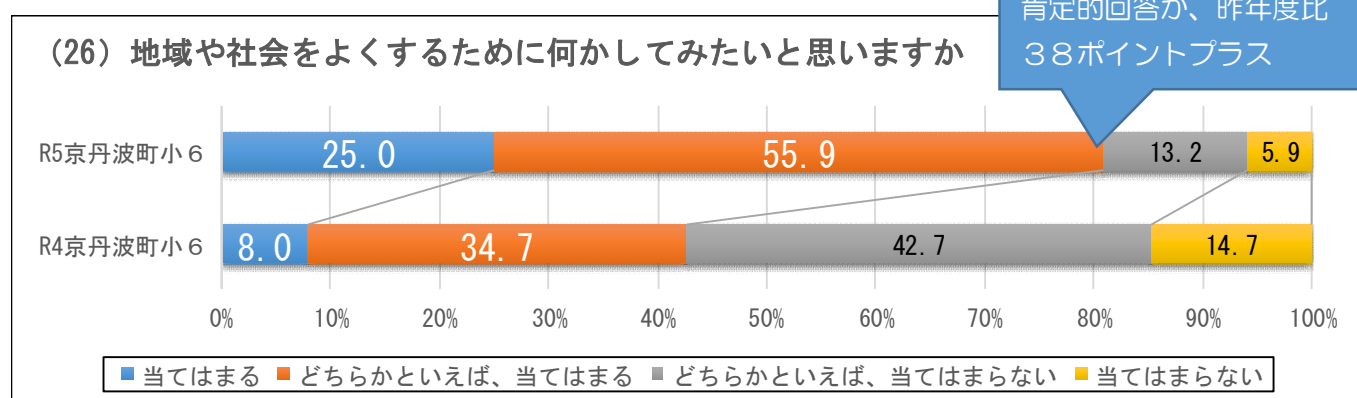
小学校6年児童（59項目）及び中学校3年生徒（72項目）を対象に質問調査が行われました。その結果のうち、「強み」として更に伸ばしていきたい項目や改善され「伸長」が見られる項目、今後「改善が必要」な項目に絞って掲載します。

【小学校】

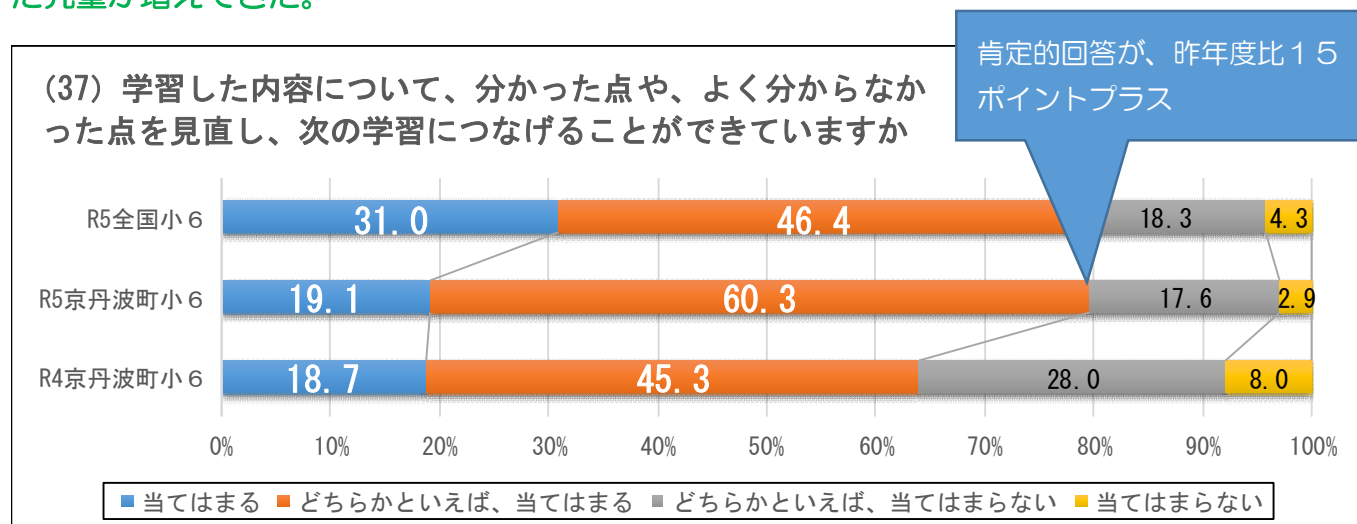
○強みとして、地域とのつながりを大切にできている。



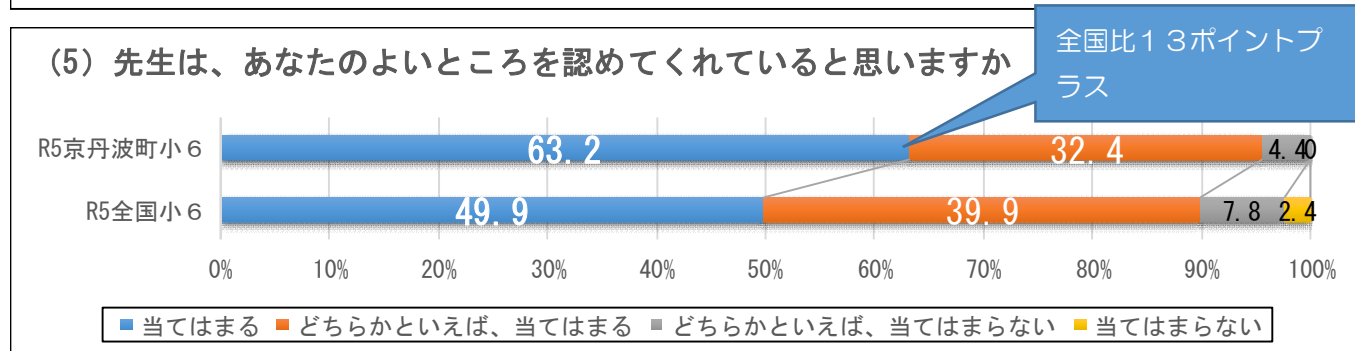
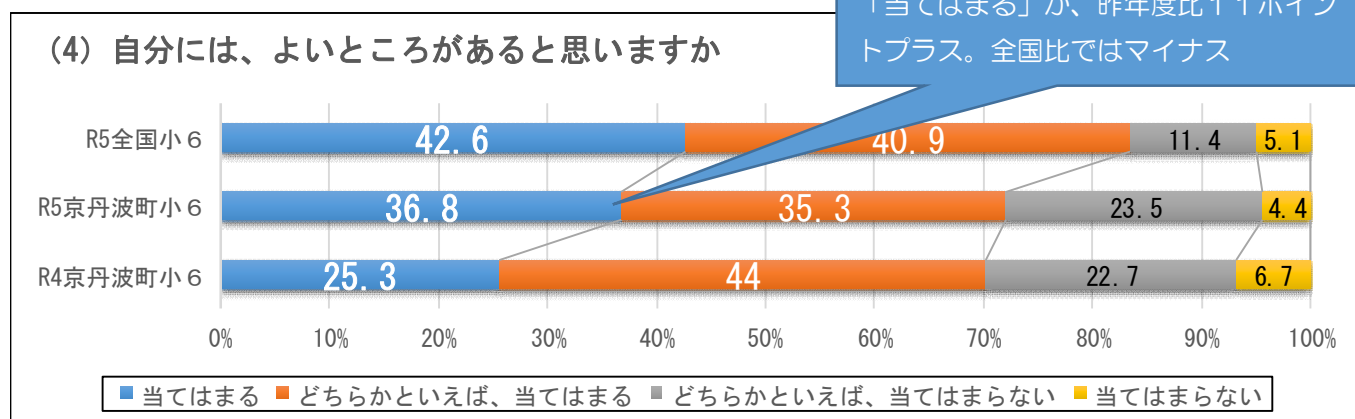
○新型コロナの5類移行により、地域に入ったり、地域と連携したりする教育活動が再開され、児童が積極的に地域に目を向けるようになってきた。



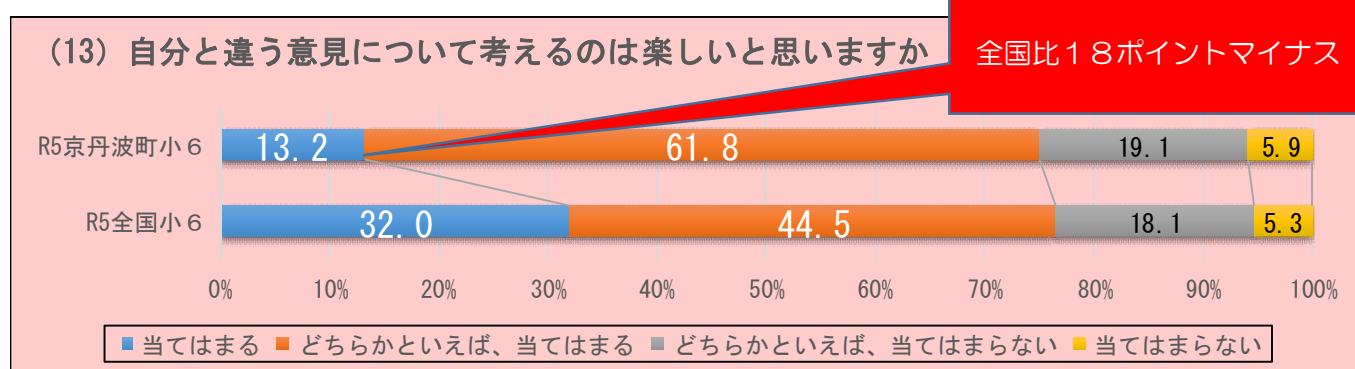
○主体的な学びの実現に向けて、自分の学びを振り返り次の学習に繋げようという意識を持った児童が増えてきた。



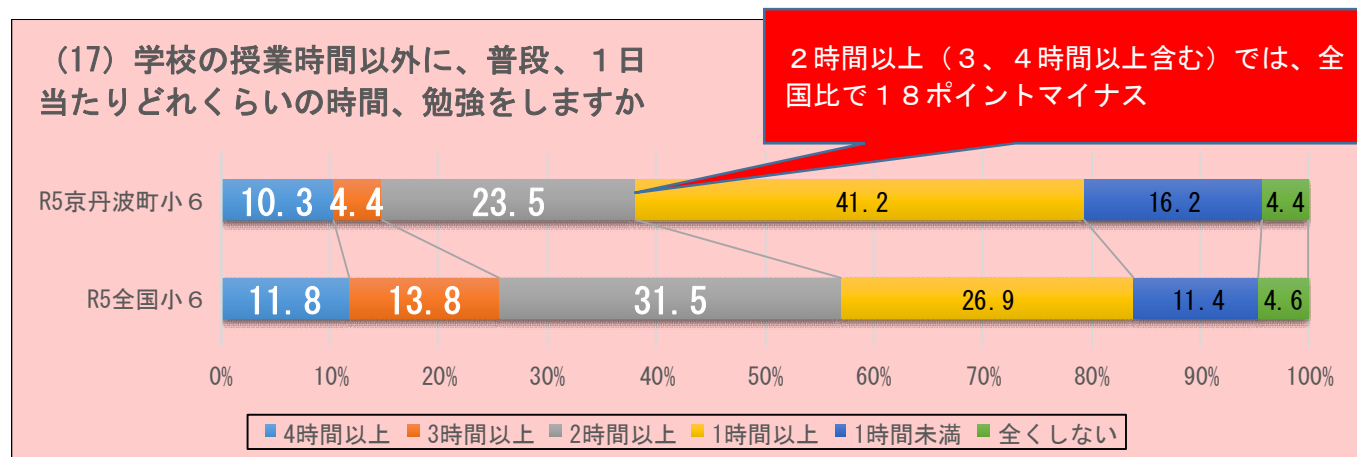
○昨年度比で伸長しているが、全国平均と比較すると、自分に自信が持ちきれない傾向がある。幼少時から、まわりの大人がありのままの子どもをしっかりと受け止め、努力したことや伸長した点をしっかりと評価していく必要がある。



○グローバル化や価値観の多様化が進む中、多様な意見や自分と異なる考えを受け入れた上で、自分の考えを練り直すような柔軟性を身に付けて欲しい。



○全国平均に比べて、2時間以上家庭学習をする児童が少ない。

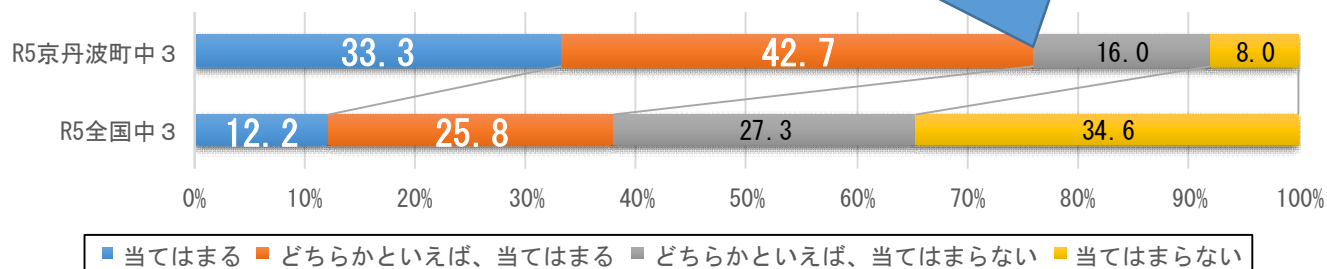


【中学校】

○強みとして、地域とのつながりを大切にできている。

肯定的回答が、全国比38ポイントプラス

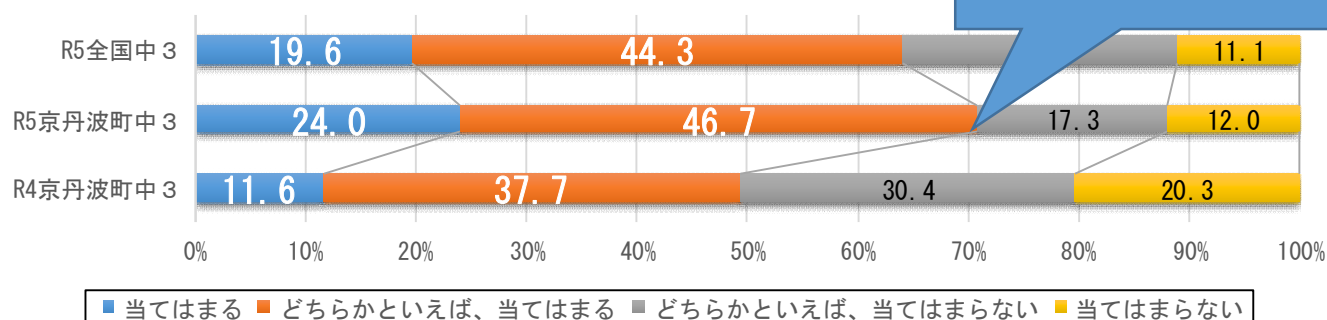
(29) 今住んでいる地域の行事に参加していますか



○地域を題材にした探究的な学び（総合的な学習の時間）を推進することで、生徒が地域課題等について考えるようになってきた。

肯定的回答が、昨年度比21ポイントプラス

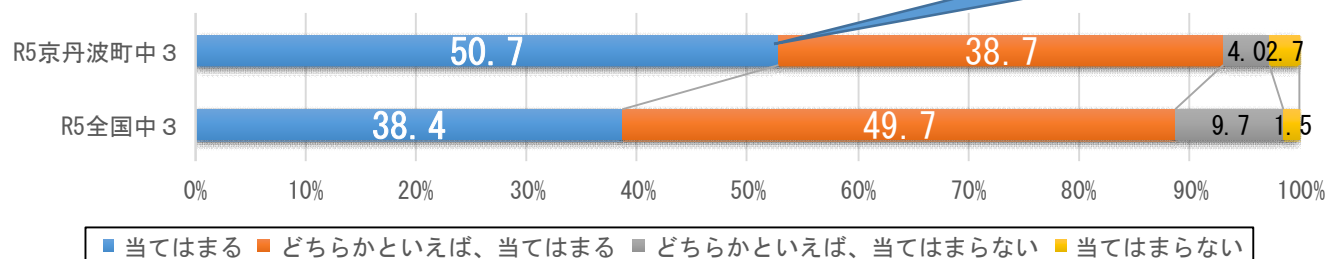
(30) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



○人に対する優しい気持ちと行動化する力が育っている。

「当てはまる」が、全国比12ポイントプラス

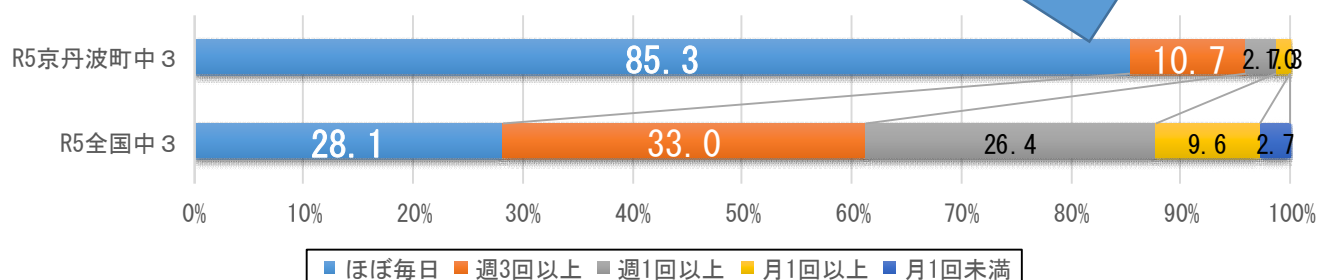
(8) 人が困っているときは、進んで助けていますか



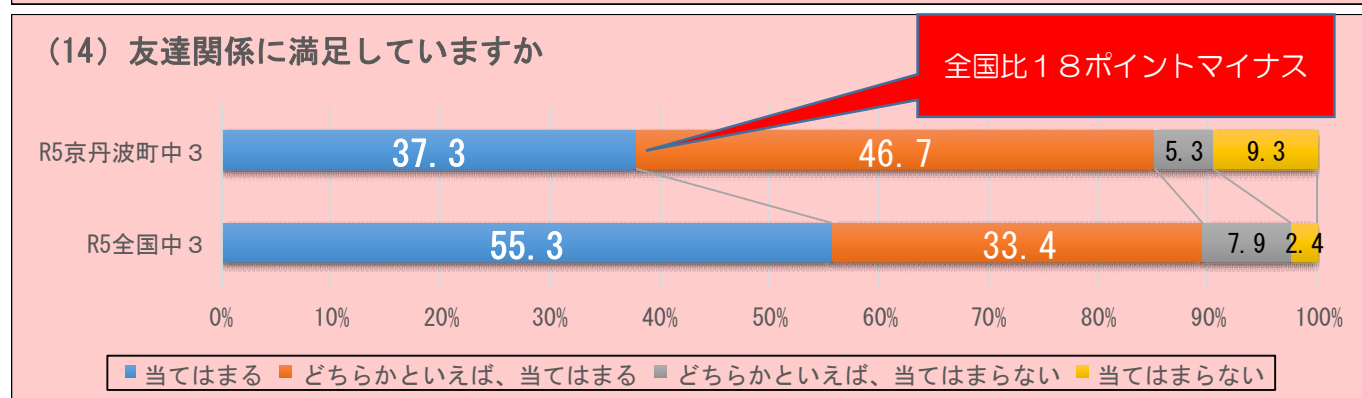
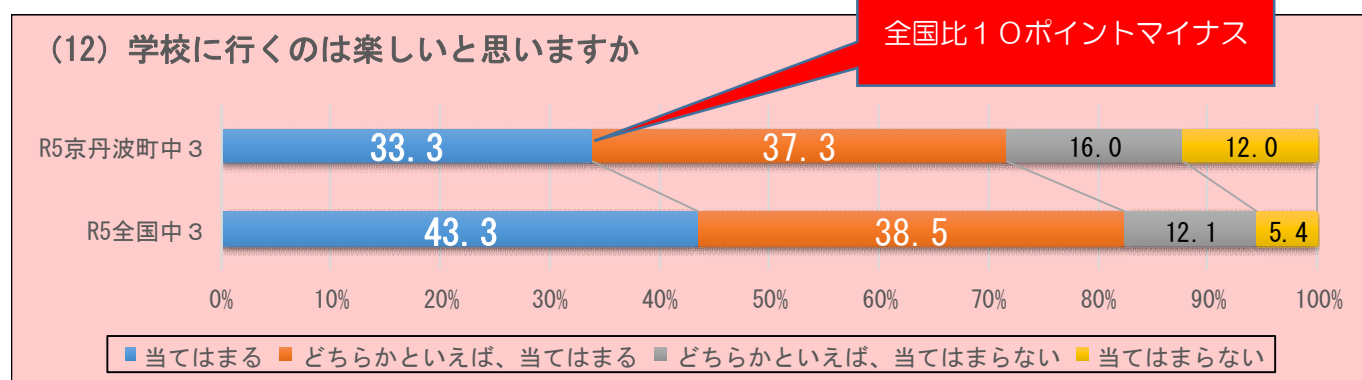
○生徒がiPadの使用に習熟し、授業で活用されている。

「ほぼ毎日使う」が、全国比57ポイントプラス

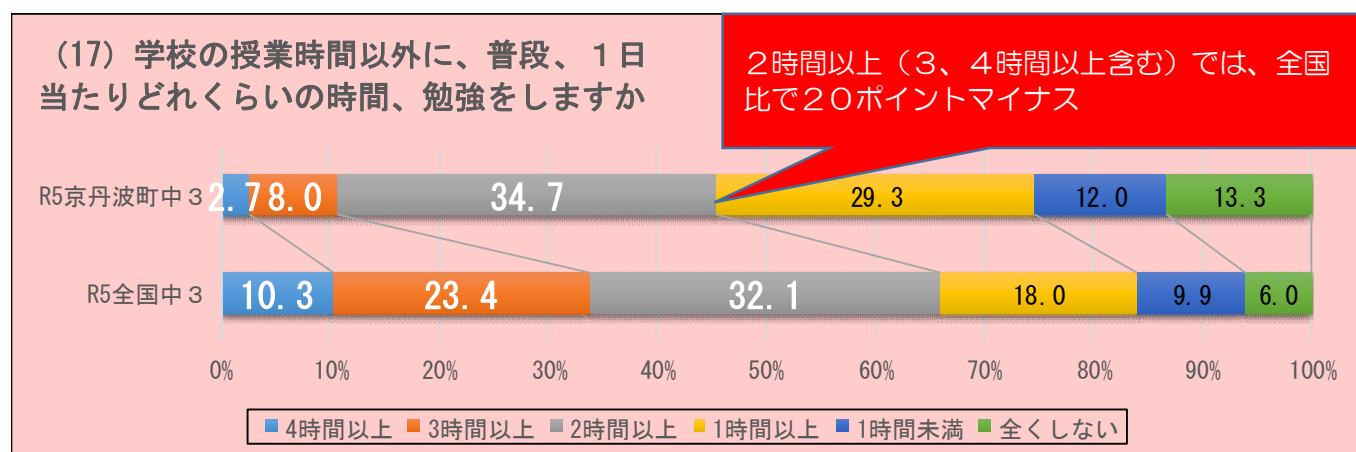
(33) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



○「学校へ行くのは楽しい」「友達関係に満足している」への「当てはまる」が少ない背景をつかみ、生徒の困り感、人間関係の悩み等をしっかりと受け止めることができているか等を見直す必要がある。



○（小学校と同じく）全国平均に比べて、2時間以上家庭学習をする生徒が少ない。また、「全くしない」と回答した比率も高い。小・中学校で連携して家庭学習充実に向けた取組を強化するとともに、各家庭の協力のもとで、家庭学習に向かうための環境を整える必要がある。



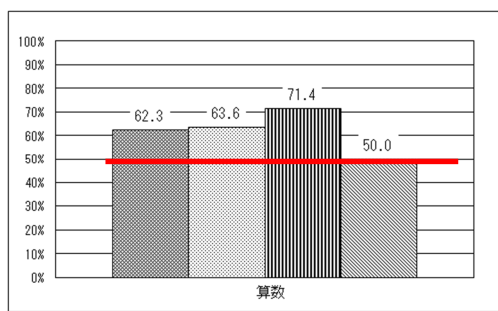
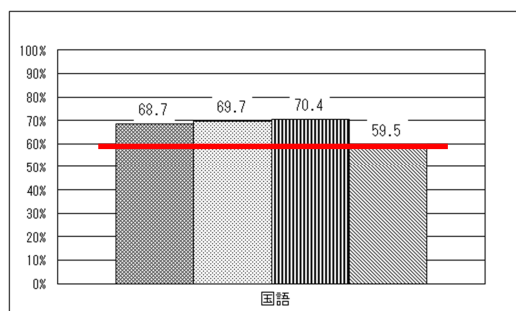
3 正答率と相関が見られた質問項目について

学力は、学習活動以外の様々な要素（生活習慣、興味・関心、学習環境、非認知能力等）に大きな影響を受けます。質問調査項目における回答ごとの正答率を見ることで、学力と相関があると考えられる要素を推定できます。以下に、顕著な相関を示した項目を掲載します。

【小学校】

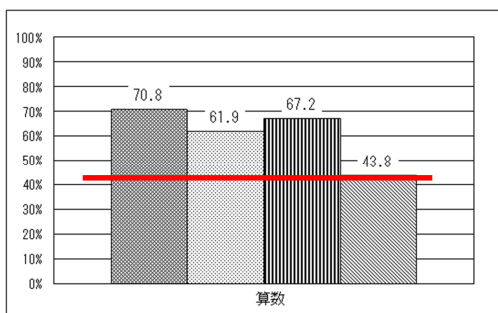
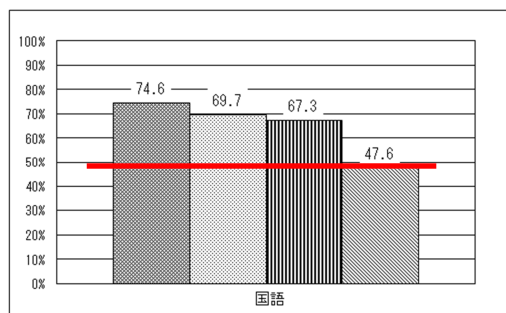
質問番号	質問事項
(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか

	当てはまる
	どちらかといえば、当てはまる
	どちらかといえば、当てはまらない
	当てはまらない



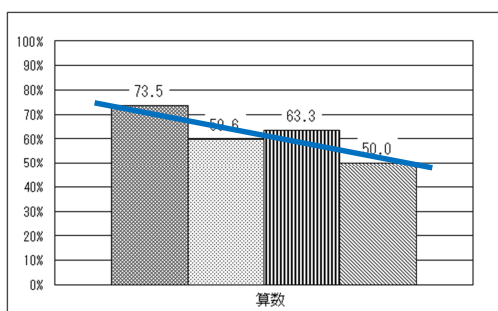
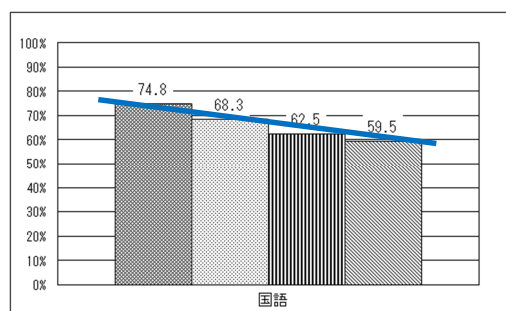
学校に行くのが楽しくないと思っている児童は、平均正答率が低い。周りの大人が、本人の困り感や気持ちに寄り添うとともに、その原因を解消する働きかけが必要と考える。

質問番号	質問事項
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



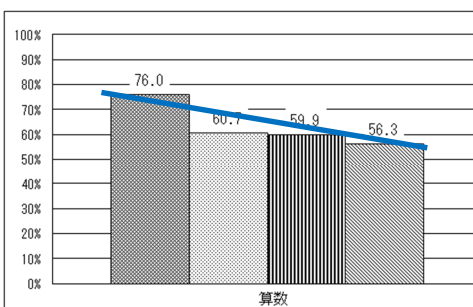
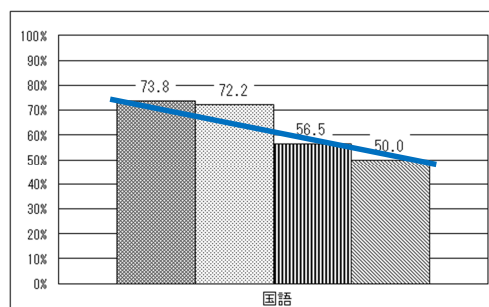
自分と違う意見について考えるのは楽しくないと思っている児童は、平均正答率が低い。幼少時より、自分の意見を持つ大切さとともに、社会の多様性を知り、自分以外の人の考えや意見から学ぶことの大切さを実感させる必要があると考える。

質問番号	質問事項
(26)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童は、平均正答率が高い。学びを社会に還元しようとする態度、身のまわりの事象への関心、他者に働きかける意欲等が、学力の伸長に関係すると考える。

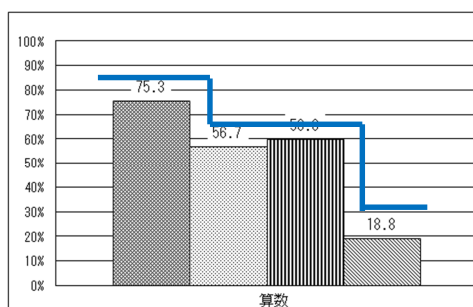
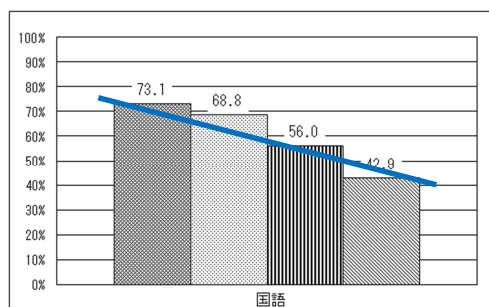
質問番号	質問事項
(37)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



学習内容の理解度を振り返り、次の学習へつなげようとしている児童は、平均正答率が高い。

学びを自分ごとと捉え、自分の学びを客観的に振り返る力や態度（メタ認知能力）が、学力の伸長に大きく関係すると考える。

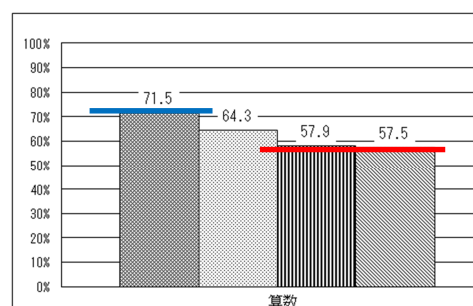
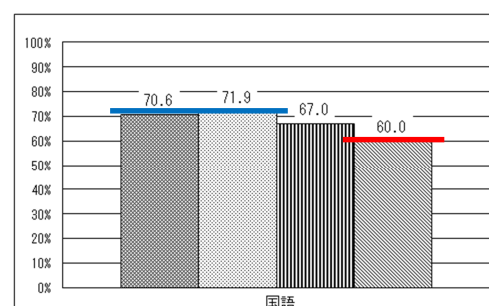
質問番号	質問事項
(45)	国語の授業の内容はよく分かりますか
(53)	算数の授業の内容はよく分かりますか



授業の内容がよく分かると思っている児童は、平均正答率が高い。特に、算数において差が顕著になる。

教員は、誰にとっても分かりやすい工夫を重ねるとともに、苦手だと思っている児童に対する支援をきめ細かく行う必要がある。

質問番号	質問事項
(43)	国語の勉強は好きですか
(51)	算数の勉強は好きですか



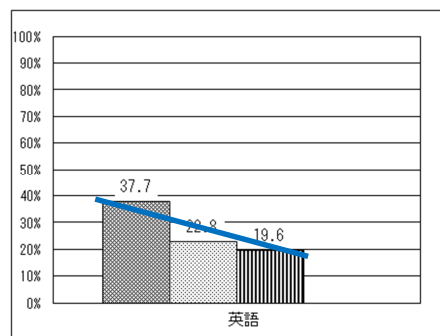
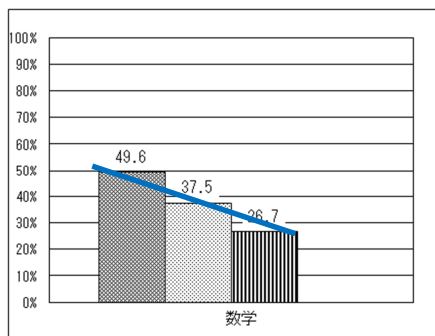
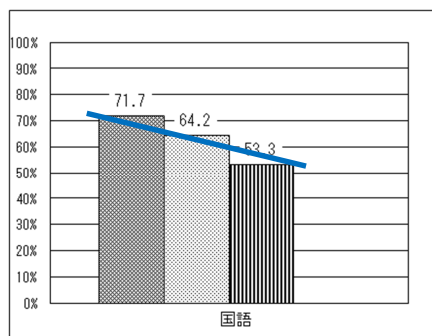
それぞれの教科の勉強が好きな児童は、平均正答率が高い。

教員は、教科の魅力が伝わるように授業改善に取り組むとともに、好きでなくとも粘り強く学習に向き合える支援を行う必要がある。

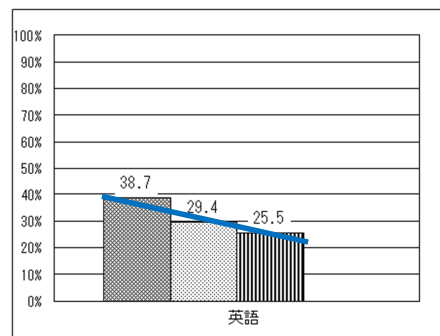
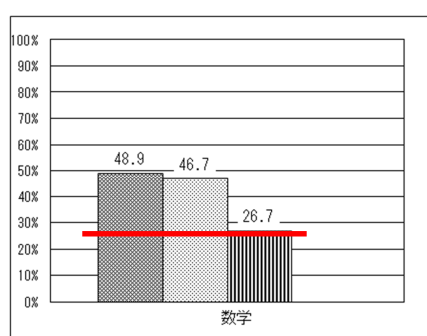
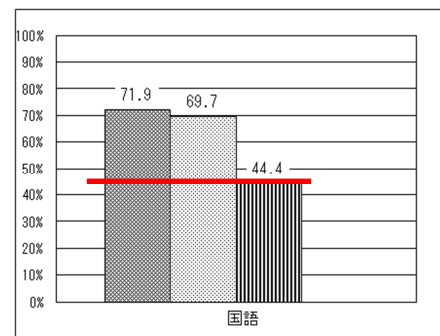
【中学校】

質問番号	質問事項
(1)	朝食を毎日食べていますか

	当てはまる
	どちらかといえば、当てはまる
	どちらかといえば、当てはまらない
	当てはまらない

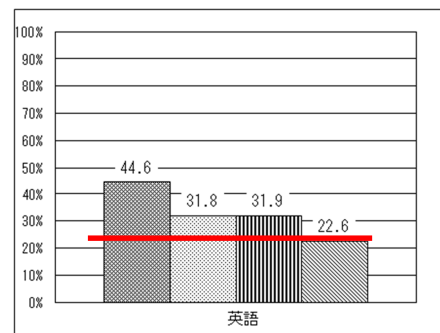
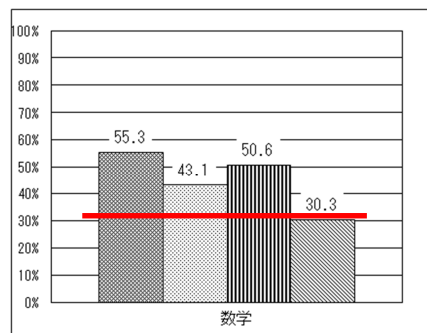
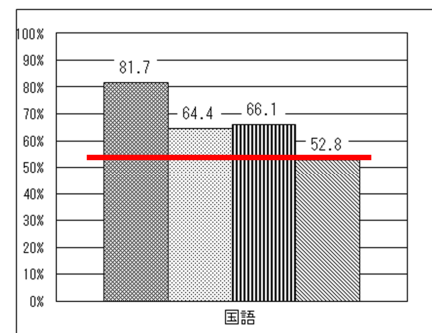


質問番号	質問事項
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



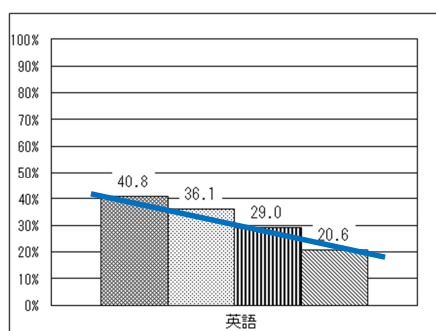
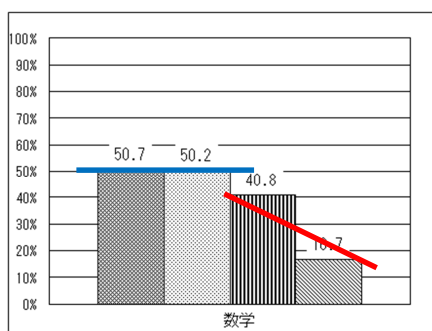
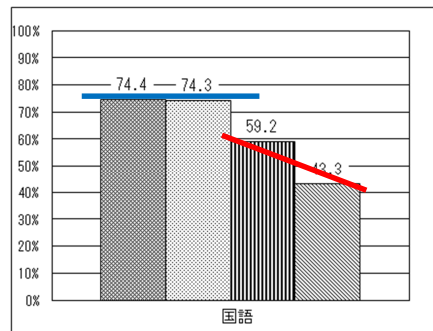
朝食を毎日食べるかどうか、就寝時刻、起床時刻は、自己管理能力と生活習慣を象徴している。普段の自己管理と基本となる生活習慣の確立が、平均正答率に関係すると思われる。

質問番号	質問事項
(24)	読書は好きですか

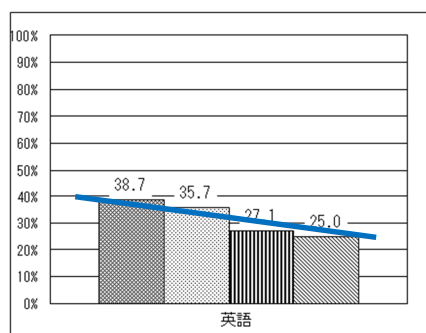
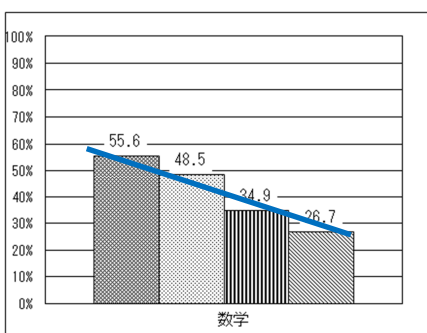
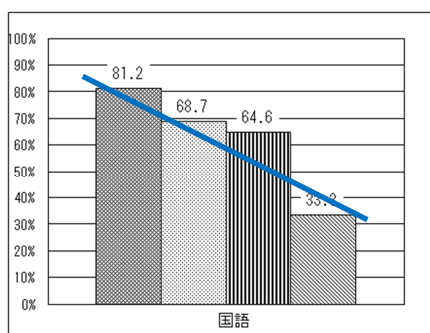


読書が好きではないと答えている生徒は、平均正答率が低い。
読書活動を通して、読解力、文章から具体的な場面を想像する力といった「学びの基礎」が培われるからだ考える。

質問番号	質問事項
(37)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

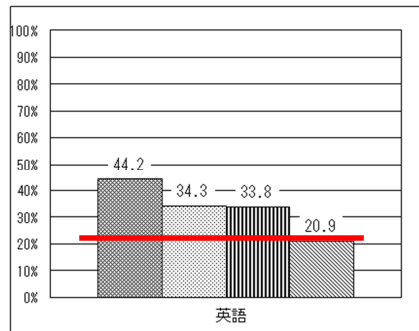
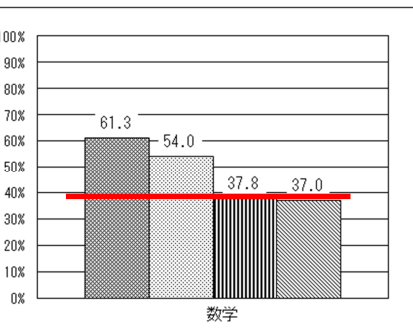
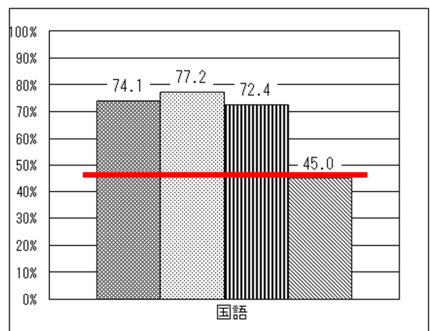


質問番号	質問事項
(41)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



課題の解決にむけて、自分で考え、自分から取り組んだ生徒は、平均正答率が高い。
 学習内容の理解度を振り返り、次の学習へつなげようとしている生徒は、平均正答率が高い。
 学びを自分ごとと捉えて主体的に学習に臨む態度（主体的な態度）と、自分の学びを客観的に振り返る力や態度（メタ認知能力）が、学力の伸長に大きく関係すると考える。

質問番号	質問事項
(47)	国語の勉強は好きですか
(55)	数学の勉強は好きですか
(59)	英語の勉強は好きですか



それぞれの教科の勉強が好きではないと答えた生徒は、平均正答率が低い。
 教員は、教科の魅力が伝わるように授業改善に取り組むとともに、好きでなくとも粘り強く学習に向き合える支援を行う必要がある。

4 京丹波町における学力充実・学力向上の取組について

京丹波町では平成 29 年 4 月に、『学びを育む京丹波町メソッド』を町内全教職員に提起して、「ユニバーサル・デザイン」と「授業改善」の視点を踏まえ、児童生徒を学びの主体者にするこ
とで学力の向上を目指す取組を続けています。

また、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームを組織し、研究授業を通して授
業力の向上に取り組み、そこで得た知見を各学校に還元する取組も進めています。

◎『学びを育む京丹波町メソッド』を教育実践の1丁目1番地と位置づけ、授業改善・指導
改善を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育成する。

- ・誰もが安心して自分の力を発揮でき、一人一人が大切にされる集団づくりを進める
- ・児童生徒の実態を踏まえた単元指導計画を構想し、ねらいを明確にした言語活動の
充実を図り、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を進める
- ・付けたい力を明確にし、「めあて」から「振り返り」まで一貫した授業を展開する

◎教育委員会が各小・中学校との連携を強化し、各校がPDCA サイクルで学力充実・学力
向上を図る『学力向上システム』の構築を図る。

- ・各校が、学力診断テスト結果（質問調査含む）の分析を行い、課題を明確化し、課題
解決の方策を全教職員で共有して取組を展開する
- ・各校が、授業とつなぐ家庭学習のあり方を工夫し、家庭学習の充実を図る
- ・教育委員会は、指導主事の学校訪問、町独自の学力診断テストや質問調査の実施、町
独自の学習支援員の配置等により、各校の取組を支援する

◎校内研修の活性化を図るとともに、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチ
ームによる授業研究と連動して、『教職員の指導力（授業力）の向上』を図る。

- ・各校が、指導力（授業力）の向上に向け、研究授業を軸とした校内研修を充実させる
- ・学力のベースとなる非認知能力（自己肯定感、挑戦心、粘り強さ等）の育成に向け、
児童生徒への関わり方、個に応じた支援の在り方等についての研究を進める
- ・「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームが事前研究会、研究授業、
事後研究会を主導し、授業研究の充実を図る
- ・教科指導充実の一環として、小学校理科において専科指導の研究を行う

◎各中学校ブロック（蒲生野、瑞穂、和知）において、認定こども園・小学校・中学校の連
携を密にし、『学びの連続性』を図る。

◎「教科等の学習」を大切にするとともに、「学校教育ならではの学び（学校行事、地域と
協働した取組、部活動等）」を大切にして、「体験」「地域の方々との関わり」「友達や集団
との関わり」を通して学んだり気づいたりすることで、認知能力と非認知能力を一体的に
育むことを目指す。